

- ScholarOne Manuscripts™ ユーザーカンファレンス2015 開催報告
- 機能紹介: Reviewer Locator ～30日間無料トライアル実施中!～
- 学術界の名寄せ問題を解消する為に「ORCID」

SCHOLARONE
MANUSCRIPTS™SCHOLARONE
MANUSCRIPTS
ユーザーカンファレンス

ビジネスとしてのジャーナル運営を共に考えよう！ ユーザーカンファレンス2015 開催レポート 2015.12.09



昨年12月、秋葉原コンベンションホールにて、杏林舎とトムソン・ロイターとの共催でScholarOne Manuscripts™ (以下S1M) ユーザーカンファレンス2015を開催いたしました。年末のお忙しい時期にも関わらず、今回もたくさんの方々にお集まり頂きました。



ジャーナルを自立させるための ビジネスモデルとは

4回目を迎え、初めての試みとして「ジャーナル・マネジメント」について取り上げ、日本動物学会事務局でUniBio Press代表の永井裕子様に講演をお願いしました。タイトルは「出版モデル、ビジネスモデル 適したモデルとはなにか」です。ジャーナル・マネジメントについて、出版モデルとビジネスモデルを呈示しながら、出版費用にはどのようなものが含まれ、どう工面するのか、購読料はいかに獲得するか、オープン・アクセス誌が自立するためのAPC (Article Processing Charge) とは何かなど、ご自身のエピソードを交えながらお話し頂きました。

実体験を基にしたお話には説得力があり、参加者の皆様は、ご自身が携わるジャーナルがどのビジネスモデルに当ては

まるのか、それがジャーナルにとって相応しいものであるか、考える機会になったのではないのでしょうか。

ジャーナル運営については、杏林舎が行うサポート業務に関してポスターを作成し、ホワイエに展示したところ、足を止めて読まれている方が目立ち、関心の高さがうかがえました。

もっと詳しく知りたい！ ORCID、Reviewer Locator、 Ringgold、FundRefも

「最近よく耳にするし、興味はあるけど詳しくは知らない…」という声にお応えすべく、ORCID アジア・太平洋地区ディレクターの宮入暢子様をお招きし、ORCIDについての講演も行いました。

ユーザーは200万人に達する勢いで、世界的に急速に広がりを見せるORCID iD。ORCIDの基本から、名寄せ問題の解

決はもちろん、メンバーになることで一層広がる可能性等についてまで、詳しくご説明頂きました。

その他、S1Mに備わった新機能であるReviewer Locatorについて杏林舎の真鍋より、また、S1Mと連携できるデータベースRinggoldやFundRefについては山田より解説いたしました。

S1Mの最新情報 新インターフェースとロードマップ

もちろん、SIMそのものの進化についても取り上げました。杏林舎の鳥海より、昨年後半に行われたバージョンアップにおいて新しくなったインターフェースの仕様や新たに搭載された便利な機能、共同論文執筆プラットフォームであるOverleafとの連携等についてご説明いたしました。

トムソン・ロイター アカウントマネ

ジャーの波多野薫様からは、Overleaf、E-Commerceへの対応、エディターコラボレーションツール等、S1Mの最新情報とロードマップをお話し頂きました。

その他、初めての企画として、海外セミナー参加報告が行われました。CSEのショートコースで得た情報をもとに、ジャーナル運営におけるEditorial Officeの役割をまとめて、杏林舎の地元が発表いたしました。

閉会後には、意見交換会が行われ、軽食とドリンクを手に、展示されたポスターを見ながら、参加者様同士で交流を図られていました。

このS1Mユーザーカンファレンスは次回で5回目となり、杏林舎としては一区切りと考えております。ジャーナルのマネジメントや収益性について一層深く考察できたらと意気込みを新たにしておりますので、ご期待ください。

オプション機能 Reviewer Locatorについて

S1Mには2014年よりReviewer Locator (以下RL) というオプション機能が備わっています。既に海外のジャーナルでは大変好評で、国内でも昨年のユーザーカンファレンスでのご案内には多くの学協会様からお問い合わせを頂いておりますので、ご参加頂けなかった方も含め改めて紹介させていただきます。

トムソン・ロイターが調査した2014年秋～2015年1月の利用状況の統計では、RLを導入したジャーナル数は481で、この期間にRLが選出した査読者への査読依頼数は196,945でした。査読の承諾率は、通常の査読者選出から査読依頼を行った場合が38.3%、RLを使用した場合が36.8%となり、RLを使用した/しない場合の査読承諾率に大きな違いは見られませんでした。

海外でのRLの導入事例として、昨年4月に開催された本家ユーザーカンファレンスの際にカナダのCanadian Science Publishingという出版団体が発表した内容では、同団体が運営する17ジャーナル中の3ジャーナルで導入検討のテストを行い、エディターの使用頻度やテスト後のアンケート調査の回答結果が良かったことから、2014年7月より17ジャーナルすべてのサイトにRLを導入することを決定したということです。また、導入後のエディターからの感想も、「非常に助かる」「時間がかなり節約できる」など、好評だそうです。

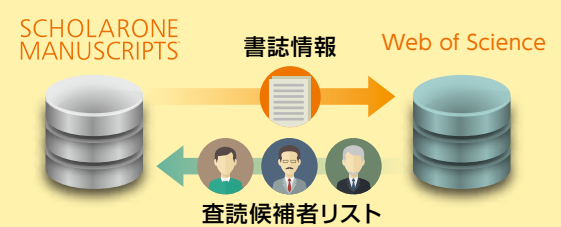
国内でも、導入頂いたジャーナルのご担当者様からは「導入後、海外の査読者の比率を大幅アップさせることができました」との嬉しいお声も頂いております。

現在、英語サイトを対象に30日間の無料トライアルを実施していますので、ご興味をお持ちの学会様がいらっしゃいましたら弊社サポートセンターまでお問い合わせください。

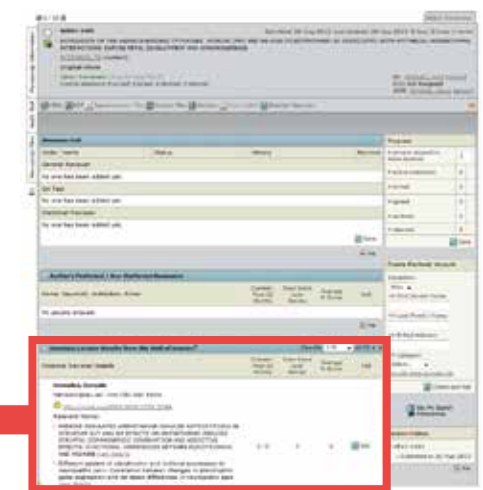
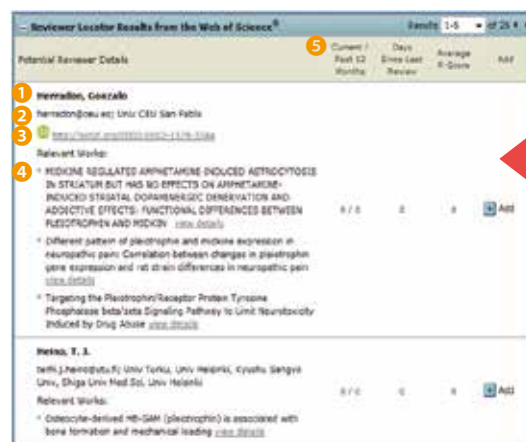
30日間無料トライアル実施中！

Reviewer Locatorとは？

論文に入力されている書誌情報を参照して、Web of Science (WoS) 上に存在する有力な査読候補者を自動的にリストアップする機能です。Webサービスを介して、WoSと連結し、マッチ度の高い査読候補者を自動的にリストアップすることができます。



- 投稿されると同時にReviewer Locatorが作動します。
- 査読候補者は、査読者リストもしくは希望する/しない査読者リストの下にリストアップされます。
- 最大30人までリストアップされます。



- 1 研究者氏名
- 2 メールアドレスと所属機関 (情報が存在する場合)
- 3 ORCID iD
- 4 研究者が著者に含まれている論文 (直近の論文の中から3論文まで表示されます)
- 5 S1M内での査読実績

学術界の名寄せ問題を解消する為に

ORCiD

ORCIDの登場

これまで学術に関わる多くの人が“名寄せ問題”に頭を抱えてきました。ある研究者の業績を調べようとして名前を検索しても、同姓同名の人がいる場合など特定が難しいケースが多くあります。Researcher ID、研究者リゾルバーなど研究者個人にIDを付与するサービスもありますが、個々のプラットフォーム内で完結してしまうという問題がありました。こうした中で、国境やサービスの垣根を越えて使用できる「オープンな」研究者固有の識別子を付与しようと生まれたプロジェクトがORCID（Open Researcher and Contributor Identifier）です。



名前
E-Mail アドレス
学歴・職歴
個人業績
出版業績
研究費獲得
コミュニティサービス
など

研究者は氏名、E-Mailアドレス、所属先、業績などの情報をORCIDレジストリに登録することができます。



オープンな研究者識別子：ORCID iD

ORCIDが発行している識別子は「ORCID iD」と呼ばれ、研究者や学術に関わる個人は無料で取得することができます。ORCID iDの登録は原則的に研究者自身が行い、氏名、E-Mailアドレス、所属、業績などの情報を登録し、それぞれ公開範囲を“一般公開”“ORCIDメンバー機関に限定して公開”“非公開”から選択することができます。ORCIDはこれらをオープンなレジストリとして公開しており、S1MやWeb of Science、ScopusなどはORCIDレジストリを参照して各システムの中で名寄せを行うことができます。ORCID iDの発行数は2012年10月のサービス開始から約3年で180万件を超えています。急速に普及が進んでいる背景には、様々なシステムがORCIDと連結することで、学術出版に関わる多くの人の利便性が向上していることがあります。2016年1月にはScienceやIEEEなどを含む8出版社が論文投稿時のORCID義務化を表明しました。また一部の助成機関では助成金申請時にORCID iDの入力を必須としているなど、ORCIDの重要性は今後も高まっていくと考えられます。

外部システムからのアクセス：Public APIとMember API

ORCIDのレジストリとS1Mなどのシステム間の連携は「API」という仕組みを介して行われます。システム運営者（S1Mであれば学協会、出版社など）は無料の“Public API”か、もしくは年会費を払ってORCIDメンバー機関となり、“Member API”を使って自身の運営するシステムとORCIDのレジストリを連携させます。

Public APIは一般公開されている情報のみを取得できるのに対して、Member APIはORCIDメンバー機関に限定公開されている情報まで取得とデータの書き込みが可能となります。

Public APIとMember APIの違い

	Public API	Member API
利用料	無料	有料（年会費）
ORCIDから取得できる情報		
一般公開	○	○
ORCIDメンバーに限定公開	×	○
非公開	×	×
ORCID上の情報の編集		
一般公開	×	○
ORCIDメンバーに限定公開	×	○
非公開	×	×

S1MサイトとORCIDの連携

Public APIもしくはMember APIを使ってS1MサイトとORCIDの連携を行うことにより、S1M上のアカウントとORCID iDをリンクさせることができます。両者をリンクさせることで、アカウント情報にORCID iDが表示されるようになり、簡単にORCID上の情報を確認できるようになります。また連携機能は今後のS1Mのバージョンアップを通じて強化されていく予定です。これまではトムソン・ロイターのMember APIを使って各S1MサイトとORCIDとの連携が可能でしたが、両者間の契約改訂に伴い、今後も継続してご利用頂くためには、各ご利用学協会様がORCIDより取得したAPIをS1Mに設定する必要があります。お手数をおかけいたしますが、学協会様ご自身でPublic APIもしくはMember APIの申請を行い、お早目に弊社までご連絡ください。

2015年は、24 ジャーナルでS1Mの運用が開始されました！

1 日本救急医学会 ▶ 日本救急医学会雑誌

2 日本小児循環器学会 ▶ 日本小児循環器学会雑誌

3 日本生物環境工学会 ▶ Environmental Control in Biology

4 日本大学歯学部 ▶ Journal of Oral Science

5 日本地震工学会 ▶ 日本地震工学会論文集

6 富士技術出版株式会社 ▶ International Journal of Automation Technology

7 富士技術出版株式会社 ▶ Journal of Advanced Computational Intelligence and Intelligent Informatics

8 日本材料学会 ▶ 材料

9 日本音声学会 ▶ 音声研究 / Journal of the Phonetic Society of Japan

10 日本栄養・食糧学会 日本ビタミン学会 ▶ Journal of Nutritional Science and Vitaminology

11 農業食料工学会 ▶ 農業食料工学会誌

12 日本病理学会 ▶ 診断病理

13 日本応用数理学会 ▶ 日本応用数理学会論文集

14 日本読書学会 ▶ 読書科学

15 日本脳神経血管内治療学会 ▶ JNET Journal of Neuroendovascular Therapy

16 日本インターベンショナルラジオロジー学会 ▶ Interventional Radiology

17 日本心臓リハビリテーション学会 ▶ 心臓リハビリテーション

18 レーザ加工学会 ▶ Journal of Laser Micro/Nanoengineering

19 情報処理学会 ▶ IPSJ Journal

20 日本周産期・新生児医学会 ▶ 日本周産期・新生児医学会雑誌

21 日本鳥学会 ▶ Ornithological Science

22 日本病態栄養学会 ▶ 日本病態栄養学会誌

23 繊維学会 ▶ Journal of Fiber Science and Technology

24 日本自己血輸血学会 ▶ 自己血輸血

SCHOLARONE MANUSCRIPTS

編集後記

S1Mユーザーカンファレンス2015では、年末のお忙しい時期にも関わらず、今回も多くの皆様にご参加頂きまして、誠にありがとうございました。「ジャーナルマネジメント」につきましては、以前より弊社で検討していたテーマであり、講演者の永井様には、超過密スケジュールの中、ご無理をお願いしてプログラムを実現することができました。参加者の皆様におかれましては、各学協会様の環境の違いもありますが、それぞれの形で刺激を受けられたかと思います。「ORCID」につきましては、欧米に比べて日本では普及率が低い状況ではございますが、昨年より宮入様がORCIDのアジア・太平洋ディレクターに着任されましたので、あらためて皆様にORCIDを正しくご理解頂くために講演をお願いいたしました。大変わかりやすくお話しくださいましたので、学協会の皆様も是非、普及にご協力を頂ければと存じます。今年もユーザーの皆様との情報共有とS1Mの利便性向上に努めてまいりますので、ご支援、ご協力の程、よろしくお願いたします。

S1M NEWS

2016年1月31日発行 第9号

発行

株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原3-46-10
TEL. 03-3910-4311
FAX. 03-3949-0230
URL http://www.kyorin.co.jp

編集・制作・デザイン

株式会社 杏林舎

E-mail

s1mnl@kyorin.co.jp

©株式会社 杏林舎 本誌掲載の記事・写真・イラストレーション等の無断転載を禁じます。

簡単に作れる「ORCID iD」



① ORCIDの公式ページにアクセスします。

② 「1 REGISTER」の文中にある“Register now!”をクリックします。

③ 個人情報の入力画面にお名前とE-Mailアドレスを入力し、パスワードを設定します。

④ 情報の公開レベルを「一般公開」「限定公開」「非公開」から選択します。

⑤ 「CAPTCHA」とプライバシーポリシーへの同意を行い、“Register”をクリックして完了です。

ORCID 公式ページ
http://orcid.org/

なおPublic/Member APIの取得にはジャーナル代表者のORCID iDが必要となりますのでお早めにご準備ください。ORCIDのHPには「30秒あればアカウントが作れる」と書いてありますが、本当に簡単に作ることができますよ！

こんにちは！学術ソリューション課の山田です。S1MとORCIDを連携させるには、まずは学協会/出版社様がORCID iDを取得してからAPIを取得して頂く必要があります。Public APIの取得方法は別途ご案内させていただきますので、今回は「ORCID iD」の取得方法をご紹介します。

